

③土間には、発掘調査から5連のカマド跡が確認されています。

④土間上部には、重厚な梁組が、幾重にも重なっています。また、カマド跡上部には、防火対策から漆喰が塗られていました。

⑤帳場座敷は商売の打合せ場として作られました。

⑥土間の奥の釜屋は後に増築された物とのことでした。

◆ 書院の紹介

渡り廊下を渡った奥には、書院が配置されています。主屋と同年の嘉永7年(1854)に建築されました。寄棟屋根に棧瓦葺きで、庭に面した三面に広縁を配置し、軒先を深く設け前座敷と奥座敷に続いています。また、客間ですので、畳は、縁付きになっています。

◆ 新座敷の紹介

慶応元年(1865)に建築されました。ここでの注目点は、渡り廊下の途中にある女中部屋です。小さいながらも独立性を保つために、内から落とし錠で鍵が掛けられるようになっています。今では、当たり前ですが、江戸時代の当時にこの考え方が出来たのは、従業員を大事にするという当主の心掛けがあったからだと思いました。



▲ ④土間上部には、重厚な梁組



▲ ⑤帳場座敷



▲ ⑥釜屋



▲ ⑦書院へ続く渡り廊下



▲ ⑧花菱格子の欄間



▲ 書院の軒先



▲ 書院前の坪庭



▲ ⑨奥座敷の床の間



▲ 新座敷の渡り廊下



▲ 長屋門前の庭井戸



▲ 書院前の庭園



▲ 新座敷の枯山水



▲ 新蔵(長屋門右手奥)

◆ 旧吉田家住宅を後にして

見学時間は、周囲の散策も含めて約3時間となりました。建物もちろんですが、周囲の庭園も一見の価値は、あるかと思います。書院から眺める苔生した庭園には、心が洗われました。さらに新座敷から眺める枯山水の庭園も当時の吉田家の隆盛が感じられました。

さらに長屋門から主屋に続く石畳の脇にさりげなくある庭井戸にも同時の生活が感じられました。また長屋門に入って右手の新蔵では、催し物が行われています。ぜひ立ち寄ってみてください。